

学校教育目標	「自分で考え、判断し、行動する児童の育成」 - 夢を持ち、自律して学び行動し、社会に貢献できる人を育てる
重点目標	(1) 学ぶ主体は子ども (2) 全教職員が全児童の担任・「よい子の約束」を中心にした生徒指導 (3) 全教職員が学校経営に参画（チーム松一）

1 アンケート項目及び結果について

児童・保護者・職員に対して実施しました質問項目とその結果は別紙のとおりです。

（関連する質問項目ごとに整理し、肯定的な回答について比較）

2 重点目標に関する状況について

(1) 学ぶ主体は子どもについて

本校では、一人ひとりの児童に応じたきめ細やかな指導を実現するため、県費職員に加え、多種多様な市費職員（低学年支援教員、各支援員、スクールカウンセラー等）と緊密に連携してまいりました。また、授業力向上を目指し、「自分の思いや考えを表現できる児童の育成 ―物語文の読み取りを通して―」をテーマに校内研修を推進しました。今年度は柏市教育研究所の指導主事を招聘し、専門的な視点から国語の授業づくりについて深く研究を重ねました。

学校評価アンケートの結果を見ると、「7. 自分の考えを周りに伝える」「8. よく考えて学習する」「12. 協働的な課題解決」の各項目において、主体的・対話的に学習に取り組む児童の姿が肯定的に評価されています。また、「16. ICTの活用」も着実に浸透しています。特筆すべきは、「17. 分かりやすい授業」への教職員の自己評価が昨年度の76%から88%へと大幅に向上した点であり、研修の成果が着実に現れていると考えられます。

一方で、「22. 困難なことへの挑戦・粘り強さ」については、児童と保護者の認識に乖離が見られました。児童の「頑張っている」という自覚を、保護者がさらに期待を込めて見守れるよう、今後も粘り強い取り組みを支援する必要があります。引き続き、校内研修や若年層研修を充実させ、授業力のさらなる向上に努めてまいります。

(2) 全教職員が全児童の担任・「よい子の約束」を中心にした生徒指導について

生徒指導主任、教育相談コーディネーター、特別支援コーディネーターが中心となり、部会や校内委員会を定期的に開催しました。各学年の現状や支援が必要な児童への対応を検討し、職員会議を通じて全職員で情報を共有しました。また、授業交換や教科担任制、専科指導、諸活動（クラブ・委員会）などを通じ、学級担任だけでなく「全職員で全児童を見守る」体制を構築してまいりました。その結果、学校生活の楽しさや規範意識、対人関係（アンケート項目1, 4, 5, 6, 10）において、児童・教職員・保護者の三者から高い肯定評価を得ることができました。これは、多くの教職員が多角的に児童と関わり、状況に応じたタイムリーな指導を行い、同じ方向に向かって教育活動に取り組んだ成果であると考えられます。

また、基本的な生活習慣の共通理解を図るため「よい子の約束」を活用し、指導を徹底してまいりました。疑義や新たな課題が生じた際には、学校安全部会や生徒指導部会を中心に随時見直しを行い、職員間での共通理解を深めています。各教室には概要版を掲示し、全教職員が同一の視点で指導に当たることで、指導の平準化を図ってきました。

学校評価アンケートの結果を見ると、「6. 友達と仲よくできているか」において、児童・保護者・教職員のいずれも9割以上が肯定的回答を寄せており、良好な友人関係が築かれていることが伺えます。また、「5. 学校のきまりを守って生活しているか」「10. 学校は日ごろから子どもに自分で考え、正しい判断をしようとしている」等の項目も高く、秩序あ

る学校生活が送られています。

今後もアンケート等を活用して児童の微細な変化を捉え、全職員で一人ひとりに寄り添った丁寧な対応を継続してまいります。

(3) 全教職員が学校経営に参画（チーム松一）

学校行事や教育課程については年度末に次年度の計画を立てて、すべての教職員で検討を行い実施しています。これらについても、児童・保護者・教職員とも適切に実施しているという評価が高いという結果（アンケート項目 24, 25）が出ました。

安全面については、「25. 学校は子どもの安全や健康に配慮している」でも高い評価を得ました。PTA 交通ボランティアや交通安全推進隊の皆様のご協力により、数年来、登下校中の事故は発生しておらず、児童の交通安全意識も向上しています。

今後についても、引き続き高い評価を得られるようにしていきたいと思えます。

3 保護者からの「よりよい学校にするための提案」について

主な提案内容は以下のとおりでした。御意見をもとに、次年度の教育課程や職員の指導改善につなげ、より充実した教育活動が展開できるよう検討していきます。

- 教職員の納得感のある指導とトラブル発生時の教職員間の情報共有・連携の強化と対応の迅速化
- タブレット端末の利用方法
- 学校行事の実施内容・実施方法
- 学校からの情報伝達
- 悩みや心配事を抱える児童の相談体制と保護者との連携

4 次年度に向けた改善策

- (1) 「全職員で全児童を育てる」体制の継続と深化 「全職員が全児童の担任である」という意識を継承し、教育活動を継続します。生徒指導主任や教育相談担当が核となり、学年間の枠を超えた情報共有を徹底することで、児童一人ひとりの状況に応じた組織的かつ迅速な支援体制を維持します。
- (2) 「自己判断能力」を育む生徒指導への転換 従来の指示を待つ姿勢から、自ら考え最適解を選択できる児童の育成を目指します。「よい子の約束」を時代や実態に合わせて児童主体で見直す機会を設け、休み時間の過ごし方や清掃活動など、学校生活の様々な場面で児童が自律的に判断し行動できる機会を意図的に創出します。
- (3) 学びの自己調整を促す授業改善の推進 児童が「解決したい疑問」を自ら見出す「問いを立てる力」を育成し、学習活動をルーティン化します。また、ICT を有効活用して学習履歴（ポートフォリオ）を蓄積・可視化することで、児童自身が自身の成長を実感し、学びを自ら調整できる力を養います。
- (4) 教職員の専門性と指導力の向上（OJT の活性化） 校内研修および外部研修（市主催等）を戦略的に活用し、教科指導・生徒指導・学級経営における基礎的な指導力を底上げします。特に、若年層研修や OJT（職場内訓練）をさらに活性化させ、中堅・ベテラン層の知見を継承しながら、若手教員の育成に注力します。
- (5) 多角的な情報発信による家庭との連携強化 学校ホームページ、学校だより、文書配信アプリを効果的に併用し、迅速な連絡と積極的な広報活動を展開します。教育活動の「見える化」を進めることで、学校の取り組みへの理解と信頼を深めます。
- (6) 関係機関と連携した安全・環境整備の徹底 保護者、地域ボランティア、柏警察、教育委員会との強固なネットワークを維持します。ハード・ソフト両面からのアプローチにより、登下校の安全確保と、児童が安心して学べる教育環境の整備に継続して取り組みます。
- (7) コミュニティ・スクールを核とした地域協働の推進 松葉地区三校（松葉一小・松葉二小・松葉中）の連携を軸に、地域全体で児童を育てる体制を強化します。特にふるさと協議会や青少年育成協議会等との連携を深め、地域の人材や教材を積極的に授業へ取り入れるなど、地域と歩む学校づくりを推進します。